明治三十三年四月二十日發行（明治二十一年二月二十八日内務省許可）

婦人衛生雜誌

第百貳拾五號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百貳拾五號目次

講演

寄書

衛生叢談

中外彙報

食物調理法

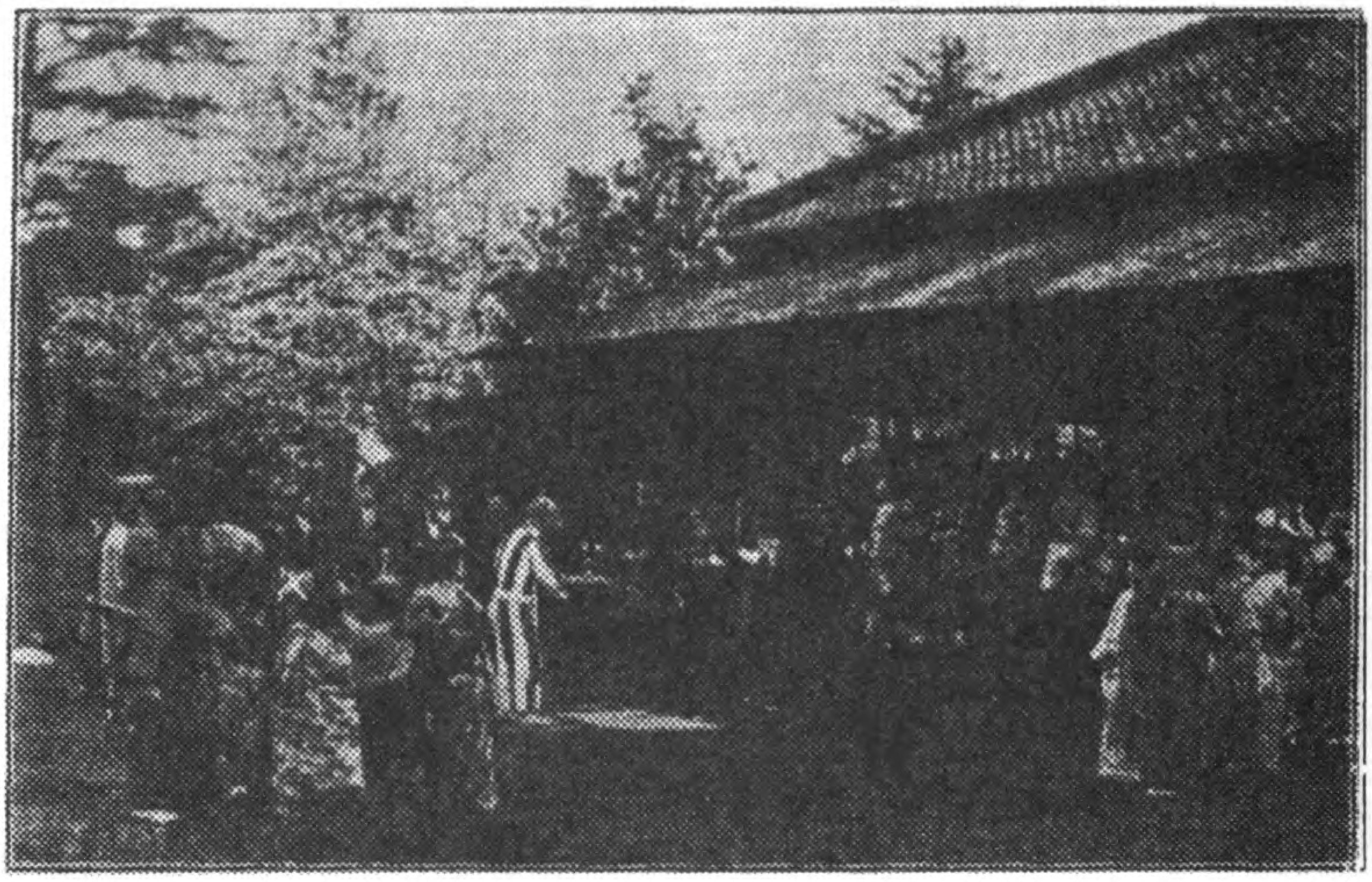
養生訓

大日本婦人衛生會記事

會報

大日本婦人衛生會第十四次春期懇親會
帝國大學植物園に於て
明治三十三年四月七日

(1) Commencement of Sports.　　餘興開始



Fourteenth Spring party of Japanese Women Sanitary Association held at the Imperial University's Botanical garden.

April 7th 33rd year of Meiji.

來會の少女



Little girls at the meeting.

婦人衛生雜誌第百二十五號
（明治三十三年四月二十日發行）

講演

飲食品に就て

（明治三十三年一月東京偕行社に於て）

陸軍一等藥劑官　恩田重信君　演說

佃速記事務所員速記

私は今日お話したいことが澤山ございますけれども、後に福引の余興がございますから成るたけ端折つて簡短にお話を致します、

一昨年でございましたか丁度偕行社を御紹介して、大層澤山お集まりになりました、其時に伯父の宮本がお正月と云ふことで鯛の骨の御話を御馳走致しました、私はそれに因んで今日はお酒の御話を御馳走したいと思ひます、昨年葡萄酒と云ふことに就きまして殊に官報に掲げて、粗惡なる所の葡萄酒のことを發表したです、其以來皆さんが葡萄酒のことに就きましては大層御心配になるやうになりました、どう云ふのが宜からうか、どう云ふのは惡しからうか、之れならば飲んで宜からうか惡しからうかと云ふことに就て、大變に御疑惑を起されまして終に葡萄酒と云ふものが餘り賣れなくなる位にまでなりました、私の考では葡萄酒と云ふものは本と誠に宜いもので人の飲む品物の中では一番良いものと考へて居つた、然るに一朝官報に掲げられて以來大層不景氣を來した、私は大いに殘念に考へる、と云ふものはお正月なり祝事なりに用ゐる所の酒でございます日本の酒、此酒と云ふものは至る所人として飲まぬ者はない位でありまして、又國家の收入の方から言ひましても大層重大な品物であります、國家歳入

の随一位を占めて居る位なものであります、然るに此日本の酒と云ふものは御承知でもございます通り米を以て造るものである、それで米と云ふものは西洋ではパンが常食でありますけれども、我國は農を以て基と致し随つて米をいて國民の常食として居る國であります、故に日本では物の相場は米の相場で極りが付くと云ふ位になつて居る、それだから米が安ければ貧民下等の人達が大層多い、其の大多數の國民が平らかに生活して往くことが出來ると云ふことである、米が澤山出來て安くさへあれば世が平らかなのであります、火付や盗賊などもなくなつて來る、して見ると此の日本の國は米が成るべく多くあらむことを希望するのであります、然るに此當り前に人の喰べき所の米を以て酒に造つて仕舞ふものでありますから、酒を澤山造れば常に喰べき所の米と云ふものゝ分量が少なくなつて往く形ちになる、而して此酒は私共の喰べる米を非常に潰して居る、それはどの位であるかと云ふと一年に三百万石四百万石も潰して居る、それで人が一年喰べる米の高が平均一石と云ふことである、日本の人人は四千万でざいますから四千万石出來なければならぬ、所が昨年は米が大層澤山に出來まして四千二百万石から日本の國に出來た、其前にも廿五年に四千万石以上出來ましたけれども、昨年と廿五年とは明治維新此方始めて澤山に取れたと云ふ位でありまして、常にはどの位かと云ふと三千五六百万石しか取れない、日本の國の米の出來高は四千万石以上なければぬらぬのです、所が三千五六百万石しか出來ないから、五百万石六七百万石だけは米が少なくて不自由して居る、茲に於て外國から米を輸入する、印度の米上海の米今では我國でありますが臺灣米、斯う云ふやうに輸入して來た、どう云ふ米が輸入した米であるか

と云ふことはあなた方のお口にはあがつたことはありませぬけれども、九段の坂などで馬車の上から御覽になりますると、車の上に麻の袋に入れた物が來ます、日本の米は俵ですが輸入した米は麻の袋に入れてある、それが日本に澤山輸入して居る既に日本に出來た米全體でも足りないで外國から輸入すると云ふ場合に、此米を役にも立たない酒に造つて仕舞に、少なくも三百万石から四百万石——四百万人の一年に喰べる米を酒にして仕舞ふのである、大變な不利益な話です、それ故に私は日本の酒と云ふものは國家の經濟の上から見ても止めて仕舞はなければならぬと云ふ考です、けれども此酒が大好きなのです、併し衞生上から言つても米で造つた酒の中には「フーゼル」油と云ふものがある、「フーゼル」油のある酒は必ず頭にのぼるものですから衞生上宜しくないものです、否、こうゆう酒を飮むと必ず終には腦病を引き起すものであります、茲に於て酒に代へて何か好いものを撰まねばなりません、麥酒にしませうか此麥酒も矢張り穀類の麥で造るものであります、而かも朝日麥酒惠比須麥酒などは大變盛んに擴まつて居りますけれども、あれは米を入れて造つて居る——麥と米とを入れて造つて居る、惠比須麥酒は大層甘いから日本の人の口に適ふ、なぜ適ふか、即ち米を入れて造つてあるから大變甘く日本人の口に適ふやうに出來る、處ぐ酒と同じく穀類を入れて造るものでありますからフーゼル油と云ふものがあるです、それ故に麥酒も往かぬと云ふことになる、そこで其次にはどうしても葡萄酒を用ゐなければならぬやうになる、其譯は葡萄酒は葡萄の實を其儘潰して皮も種も幹も一緒に潰して仕舞ふ、種や幹を一緒に搾潰しますと葡萄の澁味が多くなつて來て大層味が好くなる、さうしてそれを大きな樽の中へ入れ

ましで極つた温度を與へますと、其中で自然に醱酵と云ふことをして、砂糖と同じやうな性質で葡萄糖と云ふものがある、それが醱酵をして泡が立つて飲むと醉ふべき性質のものに變じて仕舞ふ、それを宜い鹽梅に澄まして漉したり色々致しまするご通常飲む所の葡萄酒と云ふものになる、葡萄酒は斯樣に葡萄の實を以て造るのでありますからフーゼル油と云ふものは少しもない、少しもないから飲んでも頭へ上ぼると云ふことは決してない、幾ら飲んでも頭に來ると云ふことがない、此故に飲むべき酒は何にしやうかと云ふと、國家の經濟の上から言ふても衛生上から論じて見ても、日本の酒は止めてフーゼル油の含んで居らない葡萄酒を飲んだ方が宜からうと、斯う云ふことになる、葡萄酒を用ゐると云ふことになると國家の經濟上に利益が大變多くなると云ふのは、葡萄はな畠どに出來るものでない山に出來るものであります、米や何かの出來ない所へ持つて往つて葡萄を作るのでありますから、即ち不毛の地をして有要なる土地に變ずると云ふ効能があるものであります、甲州の如き山國でも葡萄は澤山に出來る、葡萄が好く出來れば不毛の土地も價のある土地に變じて往くのでありますから、さう云ふ所から考へて見ても葡萄酒を盛んにすると云ふことは固より必要である、世の中には禁酒會と云ふものが在つて酒を飲まん樣にして居る人がある基督教などでは堅く禁じてある、此禁酒會と云ふものはもとより好いことであります、けれども私は行はれないことだらうと考へる、なぜならば凡そ民として――極く古い所を調べて見るに、何處の國でも島でも酒を用ゐない人民はない、又世界至る所如何なる偏鄙なる島國でも酒はある、夫故に酒と云ふものは人間がどうしても幾らか飲むべきものであらうと思ふ、それを「スッ

カリ」止めて仕舞へと云ふことは行はれない論であらうと思ひますから禁酒を云ふことは迚も出來ない併しながら飲むと云ふ品物に就ては撰ばねばなりません、撰ぶ上から云ふと葡萄酒を飲まなければならぬ、所が此葡萄酒が昨年からして八ケ間しくなつて來た、どう云ふもので八ケ間しくなつたかと云と、從來行はれて居ります葡萄酒と云ふものは、日本では葡萄の栽培が十分に發達して居らぬものでありますから、從つて日本に出來る葡萄の分量が少なくて四千万の人が喰べるだけ出來ない、玆に於て止むを得ず色々な策略を運らすやうなものが起つて來た、西洋からも其樣に乘じて葡萄酒を輸入して來るドン〱輸入するやうになつた、所が日本はまだ程度が低い國であります、西洋の話を聞いて見ますと三十年も經つた所の葡萄酒は一瓶十圓もすると云ふことでありますから、到底さう云ふ上等な葡萄酒を日本へ輸入して來た所が賣捌くことが出來ない、又日本人が之を買ふだけの力がないのでありますから、西洋人が此處を見て取つて成るたけ安いものを日本へ輸入すると云ふことになつた、其安い品物を横濱の商人が買取り從つて酒造家が之を買取つてさうして酒にするのであります、所が從來——殊に官報に載せられた所の酒造家と云ふものは概して學問に乏しいのであります、葡萄酒はどうして出來てどう云ふ風の性質を持つて居らなければならぬと云ふことを詳しく知つて居らない、殆んど知らないと言つても宜い位であります、唯だ色が赤くて飲んで酔ひさへすれば宜いと云ふ所からして安い品物を買つてさうして瓶に入れて躰裁を造つて好い品物らしく見せ掛けて、一瓶が五拾錢だとか七拾錢だとか云ふ値に賣つた、それですから隨つて儲けもあり洋酒屋と云ふものは概して大きくなつて居る、玆に於て警視廳の

方から或は只今演説された山根さんの方から出た者でありまするか、又は内務省から出たのか單に衛生試驗所の方で考へたものでありますか、兎に角どうも昨今の葡萄酒は粗惡なものが多くて往けないと云ので試驗をした、試驗をして見ると評判になつて居るやうな葡萄酒で如何にも粗惡な品物がある、之ではならぬからどうしても防がなければならぬと云ふ所からしてとう〳〵之を官報に掲げた、其製造元の名前を掲げて之々の葡萄酒は惡いと云ふことを掲げたのは二十一と云ふものでありまして種類を上げてあります、是等の葡萄酒はなぜ往けないかと云ふと葡萄酒の色がわるい、其譯は「アニリン」色素「テール」色素と云ふて石炭を燒て瓦斯を製した其滓から製造した繪の具がある此繪具は反物などを染ると好く染まる繪の具であります、之れをテール色素と申ます此色素を製造するには必らず礜石と申して非常な毒物を用ゐなければ製造することが出來ない、處が其毒物を用ゐて製造した繪の具を葡萄酒の中に入れて程宜いやうに色を着けたのであるから往けないと云ふので終に此色素の有無を試驗して其成績を官報に示した、それだから世の中の人が之は官報に掲げられたのであるから餘程毒物であらう決して飮んではならないと云ふことになつて仕舞つた、所がそれは大いなる間違ひだ、繪の具と云ふものはテール色素もありアニリン色素もあり動物性の色素も植物性の色素もある、成程石炭から拵へた所の繪の具と云ふものは今より二十年も前はまだ學問が開けないでありましたから、只今お話したやうな礜石をと云ふ極く恐ろしい毒物を用ゐて作つたのでありますけれども、それから後化學が非常に進歩した爲めに、唯今ではさう云ふ毒物を用ゐないでも出來るやうになつた、昨今日本へ輸入する所の繪の具のは中には

安いので毒物のもありませうけれども、九分通りは無毒なる所の繪の具になつて仕舞つた、それですから繪の具を以て染めたからと云ふても其葡萄酒が强ち害になると云ふ譯ではない、併しながら政府の方から見ると假令へ一品でも毒物を含んで居る色素が日本へ這入つて來るからには、之は好い、之は惡いと云ふことが出來ないから、一般に繪の具で染めてあるものは往かぬぞと斯う云ふことになるのであります、けれども一個人の方から考へて見ると繪の具で染めた葡萄酒だからと云つても必らずしも毒になるものではない、即ち染めた葡萄酒で誰が死んだとか何とか云ふことは今日まで一度もないのでさう恐るべきものではないのであります、併し政府の方から見ると繪の具と云ふものを入れて造つた葡萄酒は往けないと云ふことになつて居る方が慥かでありますからさうなつて居る、さう云ふ繪の具を以て染めた葡萄酒であるかないかと云ふことを日本の葡萄酒を造る人達は學問がないから見別することが出來なかつたのであります、葡萄酒でさへあれば何でも宜い殊に色が好く着いて居れば結構だと云ふので、試驗もせずに直ちに其酒に色々な名前を付けて賣出すのです、素より外國から買ふ時に試驗もせずに買つたのでありますから、之を賣捌く人が無頓着であつたと云ふ譏は免れない、昨年の五月三日官報に出て以來私は志を同じうする學者へ話をして其先生方に計りまして、兎に角一つ改良する方法を講じたが宜からうと云ふことで、先づ第一着に地球印の會社に申込んで改良の手段を計つた、私の言ふ通りに一つ改良しちやアどうだと云ふことになつた、會社も承知してそれから試驗に着手しました西洋から參りまする葡萄酒を昨年の六月から十一月まで色々試驗しました又傍ら內地に行はれて居る好い葡萄酒

も分拆致しました、十二三種分拆しました、所が舶來葡萄酒にはどうも宜しくないのが多い、そこで一つ内地の好い葡萄酒を使ひたいと云ふ考からして、越後の岩の原と云ふ所に葡萄を作る人がある、之は大層大きな畠で自分の作つた葡萄畠に鐵道まで掛つて居る、此人は川上善兵衞と云ふ人で熱心に葡萄を栽培して製造して居る、身代が十万圓もありましたけれども今は二万圓になる位に損をしてまでも改良を加へつゝある、好く出來れば國益にもなると云ふので自分の好い身上を抛つても國益を計らうと云ふ熱心家である、大學あたりの先生方も大分助力して居られるやうである、此葡萄を一つ買込んでそれで極く宜い葡萄酒を造くて見樣といふことになりました、所がなか／＼全國の人の口へ入れる程澤山出來はしない、漸く四百石か五百石しか出來ない、日本人の皆んなで飲む高と云ふものは五六千石もなくちやァならぬそれに對して迚も足りない、それで止むを得ず十月に又甲州の土屋と云ふ葡萄の製造元と掛合ひまして、皆な引取ることにしてやう／＼二千五六百石だけ買入れることが出來るやうになつた、それでもまだ足りませぬから止むを得ず舶來のものゝ極く好いのを試驗をして取ると云ふことにして十月から賣初めました此葡萄酒は川上善兵衞氏の作つた葡萄とそれから土屋の作つた葡萄とを合せそれに舶來の葡萄を入れて口當りの宜いやうにして拵へて、今日皆さんに福引の一助に供する爲めに寄贈致しまする程にまで進んだのです、私の造るのには甘いのと正味のと二つあります、通常藥用としてある分は甘い方ので、（尤も今度名を改正する積りでありますが）今一つの方は生葡萄酒であります、藥用は御婦人方の口に合ふやうに拵へ生葡萄は男子方の口に合ふやうに拵へたのであります、で外の葡萄

酒と違ふ所は瓶の口に私の試驗濟の札が張つてあります、此會社の品でも此札のないやつは私は責任がない、札のあるのは私が責任を以て保證するのであります、今日は之を寄贈して且つ葡萄酒と云ふことに就ての大畧を說明を致したのであります

尚ほ續いて今少しお話したいことがあるのであります、之は少し六けしいことであなた方のお耳には不適當ではありませうが、昨年十二月十九日に政府から提出した所の、飲食物其他物品の取締に關する法律案でございます、兎に角飲食物取締法と云ふものを政府から國會に提出した、それはどう云ふ譯で提出したかと云ふに、小松原次官も言はれる通り日本の食物と云ふものは、第一葡萄酒を初め其他罐詰であるとか或は味噌醬油の類、凡て喰べたり飲んだりするものは隨分粗末な物が多い、隨つて衞生上有益なるものが多いです、之を取締らなければ衞生が十分に發達しないと云ふ所から政府が提出した、之はどうしてもなければならぬ全體粗惡なものが世の中にあるのは、人々が身體を大切にしないから現はるゝのであるが、獨逸の國などでも初めは粗末な物が出た、併しながら法律を以て取締るやうになつてから、飲食品が非常に清潔になり非常に純粹になつて來た、故に日本に於てもこれは一日も早く發布させなければならぬ法律であります、所が私は此法律に就て少し意見を異にして居る、今度出ました所の法律は四つの箇條がある、其四ヶ條の中で三つは官吏が賄賂を取てつは往けないとか、之を製造する者共は政府から往つた所の官吏には御馳走をしてはならぬとか、斯う云ふやうな條文で之を犯した者は罰金に處すとか二ヶ月の禁錮にするとか六かしいことを以て三ヶ條は埋めて仕舞つて、一ヶ條だけに少し飲食物のことがある、それは何かと云ふと此飲食品

を營業する者は法令の定むる所に據て之を取締るぞとある、それだけなのです、法令の定むる所に據て取締ると云ふて其法令は何處から出すか、内務省から省令として出さねばならぬ、所がそれを國會で以て濫りに宜からうと承知したとして御覽なさい、内務省は勝手なことをして、勝手に六ケしいことを書いて出すかも知れない、所がそんな勝手なことを出されちやア堪らぬのです、聞く處に依れば今度出さうといふ省令は獨逸の飲食品取締法令と云ふものを土台にして組立たものでなか〳〵八ケ間しいものだそうです、所が日本では獨逸のやうな綿密に調べて法令を定むると云ふことは隨分六ケしいことであらうと考へる、第一斯う云ふことがある、獨逸では銅質を含んだものは飲食物として買賣を禁じて置く此事は餘程六ケしい事です日本の葡萄酒なり或は鑵詰なり、それからお汁粉のやうなものでも綿密に分拆して見ると赤銅の氣のないものは一つもない、彼の有名なる某葡萄酒などは大變好く出來て居るけれども種か舶來の品であるから銅氣が澤山含んで居る葡萄酒のみに限らない鑵詰などは赤銅の氣のないものはない、それから昆布です昆布などは殊に酷い、北海道より支那に輸出する所の昆布は莫大なもので、日本から輸出する重もなる品物であります、所が之には緑なる色素——赤銅から作つた所の繪の具を以て昆布を青々と染めてやるです、（支那人は昆布の色が好いと云ふので色を着けた昆布は大變能く支那へ向つて賣れて往くのです、）其他味噌でも汁粉でも必らず赤銅の氣は含んで居る、なぜ含んで居るかと云ふに日本の人は皆さん方のお勝手の物で考へて見てもお分りになるが大概唐銅の鍋を使ふ、其中には白味が引いてあります、おさんどんが氣が利かない爲めに白味がスッカリ剝げて仕舞つて居る、殊に

料理店などで使ひまするのは使方が劇しうございますから白味の剝げたのが大分多い、又中には眞鍮の杓子のやうなものもあります、之等も少し其中に入れて置きまするど直きに綠錆が付く、眼に見える程ではないが其見えない位でも赤銅の氣は大變含んで居る、それから次には瀨戸物を引いた鍋――お安い物であります、之等は鉛が大變含んで居る、其鉛の內には礬石などを含んで居る、隨て日本の食物には赤銅の氣や鉛の氣のない物は殆んどないのであります、所で赤銅の含んだものは一切販賣してはならぬぞと云ふ法律を出された日には第一に香竄葡萄酒も賣れなくなる、味噌や醬油も賣れなくなつて仕舞ふ皆な營業は止めなければならぬと云ふやうになつて仕舞ふ、そこで斯う云ふことの法律を出すには日本の品物と云ふものがどの位まで淸潔であるか、どの位まで赤銅が含んで居るかと云ふことまで詳しく試驗をした上で、大概どの位までは許しても宜いとか此位に止めてしなければならぬと云ふ認めが付いた上に之を法律にしなければならぬのであります、然るに今日日本の食物を分析すると云ふやうな人は極く稀であります、夫故に一朝に法律を以て極めると云ふことは出來ないのであります、獨逸では飲食品の條例を出すには二十二年掛つた、國會には法律案を出した時には國會は之を可決した、けれども施行期限は直ぐ極めなかつた、なぜかといふと、これを其儘實施した日ニヤ色々な不都合が生ずるからです、それで二十二年の間學者が研究をしてさうして法律を編立てゝ、唯今より七年前に獨逸でやう〳〵飲食品に關係する法律案を出したです、文明國を以て任ずる位の獨逸でさへも非常に骨を折つてやつた、而かも其當時はどうでありまするかと云ふと國の飲食物は大概分析したと云ふ位です、此位完全し

たと云ひながらも、未だ二十年間もかゝつて初めて法律を發したのであります、然るに『法律に定むる所』など、、短簡の言葉の法律案を作つて置いて、内務省が勝手に拵へた所のものをズラリと出されて御覧なさい大變な面倒が生じて來る、故に私は此法律は少し延ばした方が宜からうと考へるです、それまでに私初め學者共が勉强して國民の喰べる食物を精々分拆することが宜からうと思ふのであります、それから今一つお話したいことは醬油のことであります、此醬油と云ふものは極く汚ないものであなた方が始終お使ひなさるのは奇麗なやうに見えますが其實は大變汚ないものである、動もすると黴が這入り腐れ安いものであります、醬油を造る豆と云ふものは鹽水の付いたやうな豆を使ふ、それで高いのになると一升三拾錢一斗が三圓と云ふのが一番高いのでありますが、三圓位もするものは極く腐れが遠いのです、隨分二圓位のもあり一圓位のもある、甚しいのは七八十錢位なのがある、それはどうするかと云ふと其醬油へ水をつぎ込む併しそれでは薄くなつて仕舞ふ、薄くては往けないと云ふので色を着ける、それは白砂糖を火の上で燒くと黑いものが出來る、其黑いものを水の中に入れるとスツカリ溶けて仕舞ふ、之をカラメルと申しまして燒方が下手だと往けない、其カラメルと云ふものを水に落した上へ鹽水を入れてそれを醬油の中に入れるさうすると見り所が宜い、此鹽水の混ぜてあるのとないのとは腐敗の仕方が違ふ、三圓位の上等の醬油になると腐敗することが早い、下等の方が却つて惡くなり難いのです、それはなぜとか云ふと混ぜる鹽水の中に靑錢をブチ込んで——廿四文錢ですな、其をブチ込んで煮るのです、さうすると其鹽水が大變に持が好くなる、さう云ふ鐚錢を煮て入れまするから案外に

安い醬油は腐らない、上等の醬油は蛋白質だの、何だの滋養分が澤山に含んで居る、さう云ふのは腐れ易いのです、それで之を防ぐ方法はどうするかと云ふと、從來は火を入れたり何かするのでありますけれども、昨年頃から「ホルマリン」と云ふものを使ふやうになつて來た、此「ホルマリン」といふものは藥學雜誌などで盛に賞揚する藥で防腐用位ては香氣もなく又味も付かぬものであります、それを僅か入れると決して物が腐敗しない、それですから製造家は便益を以て剛く儲けたです、所が今度の飲食品條例に付て、中央衞生會議では「ホルマリン」は使つちやアならぬと云ふことになつたから大變困難です、さう云ふ風にして「ホルマリン」を禁じられて今度の法例に出されたならば醬油屋も隨分困るです、我田に水を引くやうでありますけれども飲食品條例は延期して貰は方が宜い、なぜならば「ホルマリン」と云ふものを衞生局で否決したと云ふことはどう云ふ譯かと云ふと、「ホルマリン」は極く清潔に作ることは出來ない又藥學士の力が足りなくては十分に立派に作ることが出來ないから、さう云ふ不完全なる品物を飲食品に入れて宜いと云ふことになると、思はざる所の養の生ずることがあるから、兎に角禁じた方が宜からうと云ふので否決して仕舞つたさうです、成程之は一方から言ふと尤でありますけれども、營業者の方から言ふと誠に困るのでありますから、飲食品條例はモウ少し猶豫して貰つて其ホルマリンが清潔に出來るやうになるまで待つて貰ひたい、然らざれば醬油なり味噌なり或は酒なりが十分に研究して腐れなくなる方法を考へるまで待つて貰ひたい

それから今一つは日本の酒です、之はサリチル酸と云ふものを澤山に入れてある、サリチル酸は一ヶ年

に三拾万圓も輸入して居る、此サリチル酸は食物の中に入れると決して腐らない大變に好い藥であります、夫故に日本の酒には悉く這入つて居る、それで面白いことがある澤の鶴と云ふ酒があります、それを樽で買つて來ると斯う云ふことがある、此酒は金物の器へは長く入れて置いて下さるな、又素燒の入物へも長く入れて置いて下さるなと云ふことが書いてある、なぜかと云ふとサリチル酸が這入つて居るものは鐵氣に逢ふと變色するものであるからです、若しも銚子に此酒を入れたならばお酒に色が着いて來る、それで斯う云ふ斷書がある譯です、所が今度内務省はサリチル酸も入れてはならぬと云ふことになつた、此サリチル酸は年々參拾万圓も輸入してどん／＼酒を造る人が使つて居る、さうしてそれが爲めに腐敗を防いて營業して居る、今四月一日から――僅か向ふ六十日足らずの所で若も法律がサリチル酸を入れてはならぬと云ふことになると、酒屋と云ふものは非常に困つて仕舞ふです、現に有名な灘伊丹あたりでもサリチル酸を使つてやつて居る分拆して見れば能く分る、さう云ふ譯で日本の酒を維持する爲めにサリチル酸を法律で以て往かぬぞと、斯う云ふことになつたらば、大變に營業者の迷惑を來すのでありますから、之を代用する藥か若しくは日本の酒を維持して往くもの丶出來るやうな方法の發明されるまで延期して貰はなければならぬ、若し然らざればサリチル酸を入れてもどの位の程度までは宜しいと云ふことを學者から極めて貰ふまでは此法律を發布しないやうにして貰ひたい、可決して置いても宜いから實施して貰ひたくない斯う云ふやうな次第である、飲食品と云ふことに就てはあなた方も衞生會の會員でございますから大いにお心配下さらなければならず、又酒の中にはサリチル酸が

大變に這入つて居るそれから醬油の中には砂糖を燒いたものや「ホルマリン」などと云ふものが大變這入つて居る、それから通常のお汁粉の中には赤銅の氣が大變含んで居る、之等の事に注意してます〳〵極く純粹なものにして往樣にしなければ本當の衛生と云ふことは發達しないものである、斯う云ふことを御記臆にならむことを希望する爲めに一場の演説をしたのであります、不辯な演説でございまして大きにお聽苦しうございましたらう

新潟支會に於ける講演

講師　阿部玄四郎　君述

私は此度講師拜命の阿部玄四郎で御座ります以後御見知り置きを願ひます元來私は無識の上に訥辯で御座りますから御聽き苦しき所は御容赦を願ひます扨て今改めて申上る迄でも御座りませんが何れの衛生會も同じことで此の衛生智識の發達を計るとは先づ上流の方々より下流の人々へ傳導普及するの方法を講し而して夫れを上下實行して國民相ひ互への幸福を圖るのが結局の目的て御座ります其れで上流の紳士とか貴婦人とか云わるゝ方々でありますれば皆夫々高等智識を保たるゝ上に尙ほ日々の出來事を新聞や雜誌に依り益々其智識を高めらるゝでありますから自然衛生のとなどは一通り御承知になつて居ります假令ば此の虎列刺は一種急劇の傳染病である不消化飲食物が主なる誘因である赤痢流行時は飲用水に注意せなければならぬ又「ペスト」は死亡數最も多き危險なる傳染病て主に創口等より傳染するである而て鼠族が最も傳染の媒介をなすである　隨て先づ豫防には鼠退除が必用である又創傷を受けざる樣注意せねばならぬ若し受傷すれば直に治療せなければならぬ或は赤痢虎列刺の豫防としては先づ其毒に近

づかざる樣とか又總て消化し易き一旦煮沸したるものに非ざれば飲食してはならぬ位のとは皆な御承知になつて居ります又上流の人々は生活上無論更に心配は御座りませんから意の儘に豫防も攝生も出來るです假令は一寸腫物をする夫れ外科醫腹痛がする夫れ內科醫眼脂が出る夫れ眼科醫と云ふなが實に容易であります然し中以下の社會になりますと中々そうは參りません元來一丁字を知らぬ人々が數多でありますから新聞雜誌に依りて此等の智識を得るなどの機會が無いのは勿論今日〳〵の生活に逐はるゝでありますから假令へ多少學問あり又衛生志想あるとしても之れを實行するの餘裕が御座りません然し中には相當の敎育もあり多少の資産もあるものにして或る病に罹り現在不攝生假令ば飲酒して惡いと知りつゝも酒呑む金はあるけれとも醫師養生に費ふ錢は持たぬなど〻公言して遂に命を失へ或は不具に終るものが往々御座りますが此等は自業自得て其愚たる實に憫れなものであります

夫れ故に知らず識らず傳染病や流行病或は他の疾病に侵され自身は不幸短命に終り他人へは病毒を傳搬して隣家隣村隣國等順次蔓延して終に全國大慘害を流す族らと又攝生豫防等の衛生志想あるものにして貧病の爲め知りつゝ夫れを實行することが出來ず遂に世間に害毒を流すと此の二類か御座ります私は眼科專門に從事して居りまするが此の眼病者が殊に貧富に就て發病者の懸隔が著しいです大抵中以上に一人の眼病者あれば中以下に五人乃至十人位の割合を見まする然し彼の恐るべき肺病……………結核等は却て此れと反比例て上流社會に廣く蔓延して居りますから此等の豫防撲滅には一層盡力しなければならんで御座ります先ろ本部發行の雜誌を拜見致しましたに山根講師の有益なる御講演が載てあります

中に國家が幾ら大きな軍艦を備へてもどれ程鋭利なる大砲を製つても此れを使用する人民が不健康では何にもならぬと云はれましたが實にそうで御座ります是れを一家に縮めて見ますれば先づ家族十人とする内三分の一即ち三人餘不健康でありましたら其家は必らず發達は致しません况んや數年數十年間繼續すれば假へ多少の資産家としても多くは衰亡に歸するので御坐りますして見ますれば一家一國の盛衰は實に此の健不健にあるので御坐ります

諺に眼明耳聰第一幸福と云ふとが御坐ります眼が明かで耳が能く聽へる成程是れは幸福には相違ありません此れに反して眼が盲で耳が聾でありましたら諸君如何で御坐りましやう世に種々の疾病に罹り死亡或は不具となるもの多くありますけれども其不具の内此れに超したる不幸はなかろうと存します實に生きて生き甲斐ないとは此等のものを申すので御坐りましやう昨年私の病院へ治療を乞はんが爲め此の憐むべき御手本とも申すべき不幸者が參りました十二歳の小女で此れは遺傳梅毒所謂胎毒の爲めに兩眼全く明を失へ又眼病發すると同時に漸次聽力を減して數日前に全くの聾となつたとので御坐りました偖て個樣の患者になりますと言葉や手眞似で互の情意を通するとが出來ませんから終日唯だ親子もろとも泣き暮すと申す事で御坐りました眼は申すまでもなく人身五官…………五官とは眼、耳、鼻、舌、皮膚、此の五つの中ち眼は第一に位する必要器官で御坐ります然るに北越地方は眼病者の多きと日本全國第一位に居るとは統計上確められるゝであります、なぜ他府縣に比べて眼病者が澤山であるかと云ふに此れは種々他に原因となるともあれとも先づ生活智識の程度が低い隨て眼に就ての衞生思想が乏しいと云ふとが與つて力あるとに思われます實に

不面目の話で御坐ります去る明治十一年　陛下北陸御巡幸の砌り辱くも當地方此の不幸眼病者の多いとを憫然に思召され救療費として御手本金若干御下賜のとを拜承して居りましたが誠に畏れ多いとに存します此く叡慮をなやまし奉りし程の眼病澤山の當地方に住む吾々國民で御坐りますから一般衛生事業は勿論殊に眼科的衛生の進歩を圖るに實に焦眉の急で此の優渥なる君恩に奉答致さなければなりません

扨て以上述べました次第で御坐りますから此の上流お方々殊に本會々員諸君は其衛生事業に就ての義務責任が誠に重いです何ぜかと申しますれば諸君は本會と下流社會との間の媒介者否な世の先進者となられて一方には未だ衛生の何物たるを知らざる下流の蒙昧者假令は手近かき所より申しますれば先づ各位の下女下男を初め御出入の諸職工諸商人より日雇人足等の如きに對して臨機應變衛生智識の勸發誘導を圖り或は演説に講談に幻燈應用に又は傳染流行病等發生の際には其豫防法や攝生法記載の印刷物配布等は當然の義務として致さなければなりません又他の一方には憫然なる貧困病者を救療する慈善事業を起すのであります然し誠に言ふとは易く行ふとは難して是れを實地に行のふが至極難いとで御座ります隨分當市各病院開業醫諸君を始め及ばず乍ら私共に至るまで年々歳々多少應分の施療は致して居りまするが全快否な當市の貧困者全部に對する實に九牛の一毛で誠に遺憾の次第で御坐ります、でありますから實際の効力を顯はさんとするには先づ内科外科眼科を具備したる純然たる施療病院を設置するので御坐ります、それも市內に一ヶ所縣下に二ヶ所通して三ヶ所位は必用と考へます元來北越人は慈悲深いと申すことでもあり且つ義侠心に富みたる當市民の

とで御坐りますから此等の事業は早晩必ず事實となりて現はるゝことゝ信じます又苟くも衛生會員の名稱を帶びたるものゝ殊に我々其道に從事するものは飽くまで此れが實行を圖るの大責任あることゝ存じます斯く申すものゝ此等の事業も其基礎固からざれば自然成就し難いことでありますから基礎となるべき世の衛生思想の發達を計ると先づ以て最大急務で御坐ります依て何卒諸君が協力同心益々本會の爲め御盡力あらんことを伏て願ひます以上甚だ冗長の駄辨を費しましたが新任後披露旁々聊か希望の概畧を述べましたで御坐います次に今日は膿漏眼に屬する初生兒膿漏俗間所謂產屋眼に就て御話し致しますが尙ほ其前に一言申述べ置くことが御坐ります

吾邦眼病者の統計を見ますると最も多數を占むるものは彼の「トラホーム」で又最も多く失明者を出すのは膿漏眼で御坐ります、して「トラホーム」に就ては已に各府縣に學校醫なるものを設け時々生徒の健康診斷を施し其病のあるものに對しては夫々父兄或は雇人等へ通告受療せしむるの方針を取りました以來世間一般に是れが注意を喚起致し「トラホーム」とは眼瞼の結膜に粟粒が出來る病にして不攝生すれば終生不治の痼疾となり又盲目に陷ることもある一種の傳染病である隨て此れか豫防攝生も斯く々々せなければならぬ位のことは上流の方々には最早御熱知の今日で御坐りますから先づ其盲者製造の本家たる膿漏病より御話し申すことに致しました然し「トラホーム」に就ても其豫防法や攝生法が下流社會全般普及し爲めに多少の患者數を減ずる程の結構なる時節に達するとは中々容易でありませんから將來一層の御敎導あられんことを希望致します

初生兒膿漏(產屋眼)

偖て此の初生兒膿漏…………產屋眼とは何であ

るか即ち大人の所謂膿漏眼と同一種毒質より發生する恐るべき傳染眼病で御坐ります其れで世間には何ぜ產屋眼と云ゝば輕く膿漏眼と云へば重く感ずるかと云ふに世人中此の兩症の毒質全く同一なることを知らざるもの多きに困ることと存します即ち其毒質とは淋毒梅菌(ゴノコッケン)と申して此れが或る機會に眼内に入り膿漏眼となり產屋眼となるので御坐ります世俗亦た消渴と淋病とを別種の病と思ひ誤るものあれとも共に同一尿道の加答兒であります唯だ男子にありては是れを淋病と云へ婦人にありては是れを消渴と云ふので御坐ります偖て又此の消渴の毒がどうして眼に入るかと云へば姙婦が此の病を煩て居れば其臨月分娩に際して產兒の眼内に入りそうして發病するので即ち產屋眼の名の因て起るので御坐ります又淋病即ち消渴のみならず白帶下などよりも一時性の產屋眼を起すとか御坐ります而して此の病の起り初めはどんなであるかと云へば出產後大抵五日から七日位を經て先づ球結膜に赤線が出るので其れより瞼が腫れ粘液が出てだん〳〵進むに從く瞼の腫れはます〳〵強くなりて一寸も眼を開くことが出來ないようになり又眵も濃くなりて丁度膿汁が流れる如くになりまする扨て個樣の際に愚昧の爺々婆々などが其膿液を咶め取るので御坐ります此れはかの世俗眼病には小便が効能あるなどゝ申して知らず淋病の毒を送り込んで膿漏眼を求めるのと好一對の話であります其の咶めるのも一回位ならば左程の障りも御座りませんが度々咶める處から……………此の舌にて咶める時ことに其の舌の尖を瞼の間に推し入るゝときの刺戟は中々強く感ずるものですから遂に其れが障りとなり瞼の腫れなどは一層きつくなり又角膜に潰瘍を起すので御座ります尤も此の潰瘍は咶める爲め計りとは申されませんけれとも個樣の

馬鹿らしき不取扱へのことを致して棄て置けば大抵は潰瘍を起すので御座ります又此の角膜の潰瘍は假令へ小さくとも一旦出來た上は必らず其の瘢痕を殘し多少視力を減ずるのであります然し一寸したる跡位ならば後日其醜いのを隱し又視力は回復を計る療治の方法も御座りますけれども潰瘍の小さき内は多くは氣付きません勿論瞼が腫れ眼を開きませんから其上元來產屋眼は輕い病であると云ふ觀念がありますから唯だ其内には腫れが引くだろう眼を開けるだろうなどゝ油斷して居るので御座ります段々日か經つに從て自然瞼の腫れが緩むで來る眼を開くことが容易くなつて偖て開いて見ると吃驚するので此のときは已に角膜が白くなつて居るのです又ひどいのになりますと其白いのを通り越して黒く飛び出し丁度蟹や蝦の眼の樣になるので御座りますから今度は棄て置くことは出來ません此處に至りて漸く醫師の診察を受けんければならぬと狼狽するので御座ります然し個樣に黒く飛び出す迄は角膜の損じたるものになりますと如何な名醫でも是れを見ゆる樣に癒すことは出來ません唯た後日の爲め其飛び出した處を扁平にして餘り醜くからんやうにする位であります何んと諸君憫然なものでは御座りませんか可愛兒を生れも付かん不具とするので世の父母たるもの實に此處らが注意のしどころと存じます尙ほ又個樣の愚昧なる父母・・・・・・のみならす隨分舊來の產婆俗に取上け婆々と云ふものですら產屋眼は輕い病であると信ずる位ですから勿論恐るべき傳染病であるなどゝは思へません否な知りませんですから其粘液などの汚物が澤山附着する手拭手巾をも御構へなしに相互へ使用するので或は一家族朝夕使用の金盥などにて此の危險物を洗濯する處から一人感し二人感し遂に家族全般に傳染するの例少なからんことて御座ります私

が未だ書生で居ります頃師匠の病院へ一家族六人此の病で入院したヿが御座りますが此れは以前田舎より東京へ移住したもので可なり資產もある紙商人でして最初は生れ兒の膿漏眼即ち產屋眼より傳染蔓延したので皆々傳染してより大分日を經て參つたものですから其六人の内姉二人と兄一人は全く癒りましたが赤兒と母は全くの盲となり父は幾らか見ゆるやうになりましたけれとも漸く獨り歩きの出來る位で中々以前の如く家計を營むヿがなりません又其息子と申しても未だ中學修行中で御座りましたから父の家業を相續し行くは覺束ない且つは此等の騷きより資產の大半を蕩しました處から終に世帶を疊んで古鄕に歸りましたが實に氣の毒千万のヿでありました斯く大都會に住して然かも多少教育資產あるものが個樣の不幸に陷るとは先づ珍らしきヿで御座りますが其餘の地方蒙昧の族らにありては一家二人乃至三人位の傳染者を出すは往々あり勝のヿで御座ります

而て此處に注意すべきヿは同し病毒……………產屋眼を傳染しても其年齡の高下に從て治癒上大に難易があるので御座ります假令は今家族に產屋眼ありて其れより二拾歲四十歲七十歲の人々に傳染し皆な一樣に發病當時醫師の治療を受けしものと看做すも其小兒は全治し二十歲の人は多少角膜に瘢痕を殘し四十歲の人は半は盲となり七十歲の人は全く盲となると云ふ等差比例を見るので御座ります是れは其年齡に依て其毒に對する眼…………角膜の抵抗力に强弱あるからのヿで、つまり此れは身躰の營養頁否に關係するのであります兎に角老人は老人ほど假令發病最初に充分の治癒を施すも盲となるが多いので御座りますから高老の人々は一層傳染せざる樣注意せなければならんです此れに反し壯年のもの殊に小兒などは發病するや直に適當の治療すれば決

して角膜に瘢痕を殘すなどのことはありません、ましして盲になるようなことは無いので。然らばなぜ小兒が此病の爲め盲になるもの多へかと云ふに其れは皆な前御話し申す通り父母や保護者の油斷からです嗚呼油敵大斷恐るべきことで御座ります

先づ此れまで御話申せし處にて産屋眼は消渴が原因である消渴は淋病の異名である淋病毒が眼に入れば膿漏眼が起る膿漏眼は恐るべき傳染病である然れば膿漏眼は即ち産屋眼で其産屋眼は同しく劇しき傳染眼病であると云ふことは已に業に御分りになりしことと存しますから此れより其の豫防法に就て一言致します

豫防…………豫防とは讀んで字の如く病を豫め防くので假令は胃病は暴飮暴食に基くことを知り總ての食物に注意するのか即ち豫防で御座ります夫れて傳染病に限らす何の病ても其原因と性質をさい承知すれば豫防は自然出來るので否な爲なければなりません知て之れを行わざるは愚痴蒙昧と申しましやうが先づ人間なみとは云われません處で世間には此の人間並みならぬ人間か私を始めとして非常に多いので毎度有識の方々より慨嘆さるゝので御座ります

今産屋眼の豫防と申しても別に面倒はないので姙娠中消渴に罹らは直ちに醫師に就て相當の治療を受け臨月に至るも治せざるときは決して隱弊することなく必ず其由を産婆へ知らしめ産前は産道産後は生兒の眼に對して防腐液假令は硼酸飽加水等を以て洗滌するので是等のことは内務省正規の試驗を經たる産婆に委任すれば産屋眼の豫防位のことは皆心得居ることて御座りますから何も心配はありませんが然し舊來の産婆になりますと防腐豫防などのことは無茶若茶の先生が多く御座りますから其れ等のものに對しては自ら清潔法や防腐法を差圖せなければなりません若し假

樣に注意するも產兒の眼に異狀が起りました際は猶豫なく醫師の診察を受くると肝要で御座ります若し醫師の診察に因り愈々產屋眼と云ふとが分りました以上は日々怠らす治療を受くるは勿論其傳染の媒介たる膿液即ち眼眵を一定の器物や眼巾の外附着せしめざる樣注意せなければなりません若し手を病眼或は此等の病眼に使用したるものに觸るゝときは必らず石鹼を以て丁寧に洗滌すると肝要で御坐ります又使用後の眼巾或は膿の附いた懸念ある手拭手布等は必らす其儘放置せず之を燒き棄るか又は千倍昇汞水等の防腐液に數日間浸漬して後ち洗滌使用すれば別段傳染の恐はないので御坐ります

以上餘り冗長に亘りますから今日は是れで終ります

●箴言

保養の道はみづから病を愼しむのみならず又よく醫をゑらむべし

寄書

肺病者注意（二）

容體之事

醫學士　竹中成憲君

朝は平温なれども夕刻に至れば必ず發熱す之を日晡、潮熱と云ふ即ち肺病の特徴なり

熱低く痰減し體量增加するときは漸々治療に就くものと樂むべし

食事進まずと雖も苦にすべからず無理に食事を爲すとも消化せざれば益とならざるのみならず却て害となるなり

肺病進行するとき指膨脹して大鼓の撥の如くなるとあり怪むべからず

稍々重き肺病となれば大便は下痢する事普通なり敢て怪む可らず

世人動もすれば血を吐くものを以て肺病と認むれども凡そ血を口中より出すには種々の原因あり胃より出すものを吐血と稱し肺より出すものを咯血と云ふ

毫も肺結核に關係なくして咯血するものは肺二口虫病なり本症は肺病の病あるべからざる力士車夫等の如き極めて體格强壯なるものに發する事を得るものにして全く肺病と異なるものなれば强ち胸中より血液出てたればとて落膽すべからず

此肺二口虫とは肺病の細菌と全く相異なるものにして其形水蛭に類し外國にては名醫も曾て知らざりし病症なりしを我が明治十一年に至り恩師ベルツ博士の發見せしものなり原因は恐らくは不潔の水を飲むにあるべし宜敷注意すべきなり食用に供する貝類にありやうし

肺病者の顏に褐色の斑文生する事あり恩師ベルツ氏の說に依れば我國にて百人の肺病者中七十人迄は此斑ありと云ふ(婦人姙娠し又は子宮病あるときは前頭に此斑を生ずる事あり)拙者は此斑文に重きを置かず

不意に口より血出て止まらざるときは食鹽一匁か二匁を水に入れ呑むべし

盜汗(寢汗)の出るは肺病者の常なれば決して意に介す可らず本症に對する藥品あれども多くは著效を見す

人の小便(尿)は一日八合餘なるを常例とす然るに一日六升にも昇るとあり且同時に砂糖の尿中に現はるゝとあり此症を糖尿病といふ此病の末期に至れば多く肺病を發す兎に角人は己れの尿の色と分量に每日注意すべし

素人は通じなき時棒飴を肛門に送入するとあり是無

害にして良し

久く肺病なるもの漸々喉頭の痛みを訴ふるとあり是肺病と同一なる症の喉頭に發せるものにして怪しむべきにはらず

肺病者の顏紅色なるを見て素人は顏色の良きを喜ぶと雖是誤なり益々服藥に勤むべし

肺病者下痢を起す時は此肺病と同一なる症の腸に發したるの證なり此下痢物中には即ち肺病の「バクテリア」多數に存在するを以て之に用ひし襁褓は石炭酸水を以て洗ふにあらざれば再び用ふべからず

肺病者は淫欲增進す是身體强壯の故にあらず病の爲めに然るなり

（未完）



臺灣天然足會

臺灣住民黃玉階外四十餘名の發起にて臺北縣下に天然足會は設立せられぬ天足は即ち纒足の謂ひにして天然の足を保全せしめんとの趣意なりと此會起りてより貴賤の別なく此擧を賛するもの多くます／＼盛况に向ひつゝありといふ今や臺灣婦人も均しく帝國の婦人となり日に月に習ひとしき方にすゝみ行かんとす豈に同情の感なからんや左の一篇は去二月十日日本赤十字社臺北支部篤志看護婦人會場に於て臺北支部長（臺北縣知事）村上義雄氏の口演せられたるものとて在台灣の記者知友松住氏より態々寄送せられたるものなり

●篤志看護婦人會と天然足會との關係

村上義雄君の演說に係る

私は今日我か臺北篤志看護婦人會と今回我か縣下に興りし天然足會との關係を申し演へて皆樣の御參

考に供したひと思ひます抑々天然足會なるものは臺灣婦人の纏足の風俗を改めて人間固有の天然の足を保全せしむるの目的を以て興りたるものにて、其纏足と申すものは支那の國にては古來の風俗と成て居るに拘らす其是非善悪は今更申し演る迄もなく天理に違ひ人道に戻り至極殘酷なる悪俗たるは萬國の認むる處と成て居ります、今や臺灣は我か日本の範圍に皈して其島民は我か同胞姉妹と成て實に傍觀も出來なひ間柄と成りました併し本島の人心は兎角守舊主義で俄に風俗改良などのとを持ち込んだ日には大に人心にも影響すると云ふので今日迄は其儘に經過したのでござります且つや支那の風俗として婦人は深く閨房に隠れて外部に出ず他人に接せず其代りに内部に在ては家庭上にも大に權勢を有して居るので風俗改良等には大關係を有して居るのでござります、そこで此の人種を開發誘導するには右婦人の城壁を破るのが必要でござります、併しながら此城壁は中々容易に破り得るものでなひ私は兼て夫の醫學の如き今日の土人生徒が成業の日を待たならは幾分か其端緒を得なひかなど思ふて居りました、然るに今回臺北の紳士黄玉階等か天然足會の名稱の下に同志を集め風俗改良の先導者たらんと企圖するものは實に之れ我が風化の彼に及はんとするの徴候にして大に慶賀すべき事と存じます、依て能く其起る處を尋て見まするに決して偶然の事ではありません、即ち我が日本赤十字社の旨趣と我が篤志看護婦人會の行動とか大に彼を啓發誘導して居るのが明かでござります、皆様御承知の通り我が赤十字支部は昨年を以て大に其歩を進め社員も現在八千餘人に上り尚は増加の勢ひを顯はして居ります此婦人會に於ても既に百名の上に上り土人紳士の婦人令孃か之に加盟せし者現に三十餘人であります、世人は注意せぬ事

かは知りませんが私等の感情では此三十餘名の加盟者は前きに申したる婦人城壁の一角を破りたるものと私かに信して居ります、則ち支那數百年來の陋俗も流石に我か博愛慈善報國恤兵の大主義より啓發の端を得たる事と存して居ります、世の諺にもある通り千里の堤も蟻穴より壞ると三十餘名の加盟者も他日千里の堤を壞る處の蟻穴と成るやも測られませぬ、私か天然足會趣意書なるものを見まするど赤十字社の事と篤志看護婦人會の事が明かに掲けてあつて纏足を改むへき一の實例として記してある、三十餘名の加盟者の父兄良人は總て此の天然足會の發企人と成て居る果して此の如くでありますれば此の博愛慈善なる婦人會は可憐なる開化兒の天然足會を產み出したる生母と云ふも過言にあらさることと存します、以上關係の事より申し來て見まするど殆んと親子兄弟の關係と成て居りまするが獨り來歷の關係のみでなひ苟も日本赤十字社員としても我か同胞姉妹中に於て夫の殘酷なる風俗の下に在て一生の不幸を破る者ありとせは進て以て救濟の道を講するは則ち戰時に於ける仁義の行ひと全く同旨趣の事と信します、依て私は飽まて天然足會を幇助して力を貸すの心得でござります、內地一般の赤十字社員にも之を紹介して贊助を乞ふと思ふて居ります、凡そ風俗改良と云ふことは先つ世の大勢風潮を製造するのが肝要と存します、本島の人士の中にも纏足や辮髮の改むへきを知つ居る者は多ひことと存します、併し今日迄の風潮では若し之を斷行すれは渠等の社會に齒ひされぬ樣に成て居る、殊に纏足の如きは古來の美風と成て居るから纏足せさる婦人は良家に嫁することも出來なひ不幸を被る、實に風潮なるものは恐ろしきものと存します、世に鼻の欠けたる猿か鼻の全き猿を嘲笑すると云ふ諺かござります、是

れ則ち多數の勢力は少數の正理を曲くるの狀を申したもので、纏足者か不纏足者を賤むとは恰も鼻の欠けたる猿か鼻の全き猿を嘲笑すると同樣の事でござります、故に此の風俗を改良するには多數の勢ひを得て反對逆流の風潮を製造せねは成らぬ事と信します、則ち鼻の全き猿か片輪なる鼻の欠たる猿を笑ひ足の全き者か不具なる纏足者を賤むと云ふことに成り度思ひます、今日正理の旗擧けをなす所の天然足會は先つ暫くは孤軍振はす或は重圍の中に陷るかと覺悟せねはならぬ、故に我等は義軍を募り彼か後援となり以て終局の勝利者と成し度思ひます、否な其義務を有して居る者と信します、此婦人會は率先して同意を表し渠等の勇氣を皷舞し不撓不屈の精神を養成せしめんこと偏に希望の至りに堪へません、彼の規約書にも勞力を以て此事業を助け又は義捐を以て費用を助くる等の人は之を賛助會員として名簿に登簿するとあれば自家纏足の事に關係なき內地人の如きも遙に之を賛成して此發企者の聲援を成んことを乞ひ度く思ひます、之れ則ち和民族固有の義心に基き又日本赤十字社本領の慈善に外ならざる義と信します、皆樣果して御同感でござりましたならば改めて其方法等を御相談致すへく冀くは夫迄に御熟考あらんことを願ひ置ます云々

因に記す天然足會規則は餘白を待ちて揭載することゝなしぬ若し同會の爲めに寄附志望の者は臺北縣知事村上義雄氏（臺北縣廳內）宛爲替は臺灣銀行若くは臺北郵便電信局に振込まるべしといふ





衞生叢談

實夫的里亞の話

在大學 Dr. T. S.

昨今に至り市中諸所に「ヂフテリア」患者を出しどうやら流行にもなるらしき樣子なれば家庭の母たる人は勿論子供ある家にては何人も此際充分注意して之を豫防するは勿論若し不幸にして一家中にて之に感染したる者あれば早速醫師の治療を受けしめさるに於ては遂には悔るも及ばさる歎きに陷る事ある可し

抑も「チフテリヤ」はチフテリヤ黴菌と云へる黴菌が咽頭周圍の粘膜に付着し此に焮衝を起して粘膜を破壞するのみならず此黴菌は此處にて毒物を製造し此毒か血液に混じ爲めに患者は中毒症狀に陷り種々の徵候を來す者なれば病氣の初期に當り充分の手當を施して此毒の働を中止せしめなば此恐る可き病も左程の危險を生せずして全治すべきなり

近年に至り實夫的里亞の血清療法なる者發見せられたるがこは實夫的里亞血清とてチフテリヤ黴菌の製造する毒物を無効ならしめ且つ此黴菌を消滅する藥液を患者の躰中に注射する者にて初期の患者に此方を施す時は殆んど全癒せざる事なしされば患者の父母たる者は時期を失せず醫師の許に馳せて此治療を受けしむへきなり

「チフテリヤ」は其感染後凡そ發病迄は二日乃至五日間位の時日を要する者にて病の發するや患者は何處となく心地すぐれず頭痛もあれば熱もありて物を呑み込むに當りては多くは困難を感する者也殊に乳兒にありては哺乳の際屢々乳を口より出す事あり既に如此徵候あるを知れば父母は速に小兒の咽を檢

査する事を忘る可らず若し小見がチフテリヤに感染せる者ならんには上口外の奥の粘膜甚しく赤味を帯び其兩側より舌にかけて腫張上り其内側又は懸雍垂の上に灰白色の者が付着しあるを見る可し追々病の進むに從ひ下顎の角の淋巴腺腫脹し口中の白き者は益々蔓延し心地の悪しき事一層甚しく食物は全く不進熱は四十度近くにも昇り脈は頗る早し既に如此き容躰となれば之れぞ實夫的里亞なる事は疑ふべくもあらされど如此ならさるに先ち前に述べたる如く醫師の治療を乞ふ事を忘る可からざる也

前にも述べたる如く「ヂフテリヤ」は黴菌によりて傳染する者なれば該患者ある家に出入せさるは勿論學校の如きは教員たる者常に注意して疑はしき生徒あらば速に登校を停止し亦患者ある家族にては他の小供等は勿論家人と雖も看護に必要なる人々の外は患者に近よらさる樣注意すべし以上の他黴菌は故障ある組織には容易く附着する者なれば小見に風邪を引かしめぬ樣若し咽にても悪しき事を心付かば速に之を治療すべし

南京豆の功用

南京豆は之を炙り或は菓子となして食する事は何人も知る處なれとも其滋養食料として著しき功用ある事は今日迄人の注意せさる處なりしがベルツ博士は昨年來初期の肺病患者及び糖尿病患者等に之を試用せしに其結果頗る好良にして現に一青年肺病患者の如きは南京豆を食せしめて後一週間にして躰重七百目程増加せしとぞ

乳母の撰び方に就ての注意

世の乳母は雇はんとする人を見るに乳母の躰格の如何等には少しも顧みざる人は例外なれとも少しく衛生の心掛ある人と雖も雇ひ入る可き乳母の躰格を撿査して若し躰格見事にして肺病癩病等の如き傳染

病なく且つ其乳の性質不良ならされは既に充分なりと考ふる者多きが如し、單に素人のみならず乳母の檢査を托せられたる醫師にても以上の條件にて滿足し居る者少からさるか如し、されど記者の見る處にては乳母の檢査條件は唯之に止めず乳母に傳染性の眼疾或は皮膚病なきやを充分檢査するの要ありと信す、現に過日來「トラホーム」を疾める小兒患者の乳母の眼を檢せしに純然たる「トラホーム」にして乳母に向ふて何日頃より眼病を疾むかと問へば『ヘイ、此御宅に上りますずッと前からでござります』と答ふるを常とす、亦疥癬を疾みし乳母より乳兒は勿論一家の者か悉く疥癬に傳染せしは少からさる例なり勿論以上の外乳母の性質の善惡が小兒の精神の如何なる影况を及ぼすかは記者の言を待たずして明なり

附記す次號には皮膚病に關する有益なる記事を登載すへし



中外彙報

飢餓の醫學的原因

腹中空虛となりたるが故に飢餓を感ず飢餓の原因別に怪むに足らずと一概に云ひ去るべきならんかなれども近頃獨逸ハイデルベルヒのアッペンハイメル敎授が醫學的に說明したる所に據れば飢餓とは即ち胃腑を給養する血液缺乏したる場合に生ずる感覺にして胃に食物の充たされたる時は消化機能に依て直に血液の供給生じ其感覺忽ち消滅す若し再び胃に必要の血液不足すれば忽ち或る刺激を生じて再び飢餓の感を發すべし而して飢餓の感を起す神經は口舌等の神經と同じ系統に屬ず香料の如き刺激物が舌端に觸

れて直に食慾を催進するは全く此道理なりと云へり

日本人口の生死比例と各國

日本は人口は殖ゆるも多きだけ死者も多しとは坊間の唱ふる所なるが今最近の統計を見るに事實は全く之に反せり歐洲各國にて出生數の最も多き匈牙利國は人口千に付出生數四一、五に對し死者三三、三の割合にて我が國は出生數二六、七に對し死者一六、八の割合なり我國死者の數は各國に比し極めて尠しと云ふべし

傳染病と水道との關係

水道鐵管敷設の個所に於る赤痢腸窒扶私等の傳染病は日を追て減少するに至れるは歐洲諸國に其例尠からざるが近くは我國長崎、大阪、横濱等に於て之を證するを得べく東京市に於ても既に鐵管敷設も略ぼ竣りたれば本年より右等の患者は大に減少するを得べしと

本年の傳染病

本年一月一日より去月廿八日に至る府下十五區八郡に於ける各種の傳染病死亡者を聞くに左の如し

病別	市部	郡部	合計
赤痢病	三人	○	三人
腸窒扶私	廿九人	七人	三十六人
實布的里	六十三人	十八人	八十一人
合計	九十五人	廿五人	百二十人

空氣を清潔ならしむる法

小室に久しく人の閉居して空氣の不潔となりたるを清潔ならしむるには其室内の炭酸瓦斯及び水分を除去せざるべからず其法は過酸化曹達少量を貯へ置くべし過酸化曹達は水分を取つて苛性曹達となり之に炭酸瓦斯を吸收して純粹なる酸素を遊離するものなりと云ふ之を化學的符合によりて示せば左の如し

$$2Na_2O_2+2H_2O=4NaOH+O_2$$

因に記す人の吐出する炭酸瓦斯の量は一晝夜に十七

オンスを吐き出す割合にして八時間睡眠するものとせば此間には殆んど六オンス(四十九匁)の有毒瓦斯を吐き出すものなれは是を以ても多人數一室内に集合するときは空氣を流通せしむべき必要を悟るに足るべし

長壽者の日課

佛國のアンヂンにヂーン、バプチスト、ジユポアと云へる今日百二十七歳男子の長壽者あり自から長壽の祕訣を會得したりと稱せるが其日課を聞くに毎日早起するや否や烟草を喫し次に牛乳スープを傾け正午の食事の際は二杯の酒と砂糖ぬきの珈琲を飲み晩餐の時は三杯の酒を飲み夜は家族の團欒をなして十時には必らず寢に就く又道樂といふものは植木をいぢり野菜物などを手入れし曾孫を搖籃に入れて動しつゝ子守謠を唄ふ事なりと、

衞生植物

マラリヤ熱の原因は沼澤等の停滯せる温き水中に發生するアミーバ的の物體にあることは明瞭となりしが如何にして此病の人體に發生するやは詳かならず「ユーカリフタス」と云へる木は芳しき香氣を有しよく地中にある水分をポンプの如く吸收し其中に含まるゝアミーバ的の物體も皆吸收され全く人體に害を與へざるに至ると此木は生長極めて早く一年十呎の割合にて生長しよく繁茂するをもて沼澤の近傍には缺くべからざる衞生的植物なりと

●赤痢の特効藥　佛領印度支那の醫官ポーリアー氏は同地に生ずるコーサンと稱する種子は赤痢に大効あるを發見したるよしにて氏は之を八百七十九人の同病者に施し無効なりしは僅かに八名ありしとのことなるが研究を要すへきことゝなり

●捕鼠器懸賞應募數　私立大日本衞生會に於ての同懸賞應募數は二千四百余許にして内書面二千餘通器

械四百十余個ありといふ



食物調理法

肉の筍づめ

牛肉を充分細かにたゝき鶏卵と朧昆布を其中に交ぜて細長き形に圓め筍をさと湯煮して根のかたき所をさりて小刀にて節をぬき其中へ前の圓め置きたる肉にうどん粉をまぶしかたく詰めこむべしさてかのその煮出しに醤油を加へて前の筍を煮て後よき程の輪切りにして食するときはおもしろみありて風味よきものなり

牛肉の田楽

牛肉を幅一寸餘丈け二寸厚さ三分位に切り鍋に冷水を入れ肉を入れ二三時間煮るべしさて其肉を串にさして火にあぶり味噌をつけて又火にあぶりてよし味噌は赤と白と交ぜてよくすりたるに牛肉の煮汁を少し加へて柔かにしこれに生姜又は山椒、胡椒など好によりて交ぜ白砂糖少し加へたるも用ゆべし又牛肉を切らず大なる儘前の如くして煮あげ串にさす時よき程にきりて用ふるもよし

スチウ

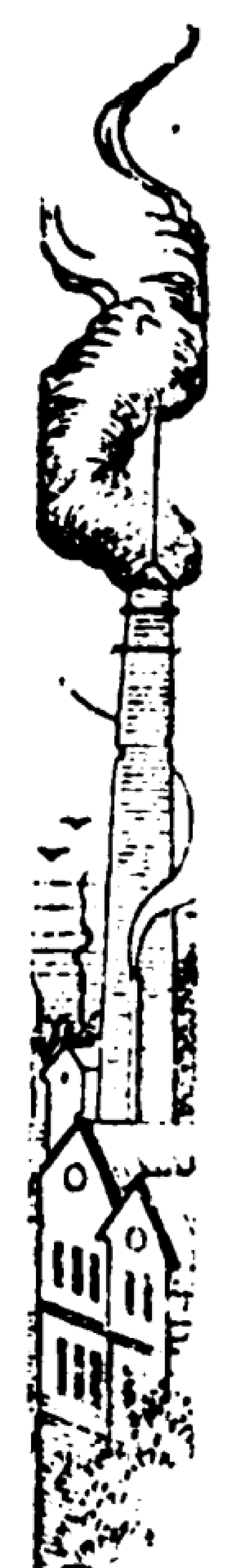
牛の肉一斤程を薄く切り一合五勺の熱湯を共に鍋の中に入れ之れに丸葱胡蘿蔔の賽の目に切りたるものを加へ食鹽と胡椒とにて味を付けさて凡そ一時間程も蒸し煮して泡の立ちたるをスクひ去りうどん粉と大匙一杯の醤汁とを和ぜよくかきまぜ再び沸立たゝせて皿に盛り出すべし





養生訓

窒素含有物は胃並に腹において消化液のために溶ける●脂肪、澱粉類も胃液並に腹液のために變化す●シヤツクリを止めるには呼吸をコラヱるか背部を不意に輕く叩くか食鹽水か砂糖水か冷水を飲むべし●虫歯の痛み一時を凌ぐには薄荷精又はエーテル柔らかき紙に浸し歯のウロをよく拭ひ其中に挿入し取り換ふべし●小供の骨は無機分(即石)が少なく柔い老人は無機分(石)多すぎ固すぎて脆ろい其割合無機三十七有機分三十三なり●急性の病氣は殊に醫者と看護法の如何によりて生かすも殺すも自在なり●日本では小兒に乳を飲ませる時期が大變に長い歯もはへ食物をたべらるゝ時分には母の乳を呑ませるに及はぬ●西洋では長くて一ヶ年大概は九ヶ月より十ヶ月なり●乳をはなすには先づ初め牛乳を以て代ふへし●乳を除すは暑き時はいけぬ暑き時の乳離れはヂキに消化機病を起すものなり



大日本婦人衛生會記事

本會春期懇親會

四月七日第一土曜日正午より小石川白山御殿町帝國大學植物園に於て本會の春期懇親會を催せり夜來の雨霽れしをもて來會するもの一百餘名來賓も多數參會せられ午后二時迄は園内の散歩植物温室の觀覽をなし餘興には春本助次郎一座の諸曲藝松林伯知の講談あり當日は總裁殿下にも御臨場あらせられ中頃の休憩には來會員に折詰菓子等を分ち頗る盛會なりき

●卷首に掲げしは即ち懇親會の景況第二の寫眞は會員の殆んど散せんとする際戯れに少女を撮影せしものなり(餘白乏しきを以て其詳細を悉くさず)

當日の寄附 (順次不同)

一金壹圓 片山かめ子
一金壹圓 羽田三緒子
一金壹圓 西升子
一金貳圓 仁禮壽賚子
一金參圓 穗積歌子
一金貳圓 宮下咲子
一金壹圓 大澤さく子
一金壹圓 清水とし子

合計金拾貳圓也

ビール半ダース 濱田捨子
千代田新報二百部 加藤時次郎君
楠田謙藏君代
產婆學雜誌三百部 南川親祇君
天然足會旨趣規則數十部臺灣 松住臨太郎君

●新報、雜誌、規則等は何れも當日の出席會員に分與せり

(懇親會收支決算は次號に掲載すべし)

土方伯爵夫人の逝去

嗚呼土方伯爵夫人逝きぬ　夫人は平素いと健やかに渡らせられしが近き頃より心臓及レオマチス症にて臥床せられ中頃快復に向はせられしも俄かに變症せられて諸名醫の治療も其甲斐なく天命をかさず去月十五日午后五時腦溢血のため溘焉此世を去られぬ御齢六十三　嗚呼哀しい哉夫人は御性質いと磊落によく公私のことに力を盡され我婦人衞生會々長としては去明治廿五年以降廿八年に至るまで其任に當られ其功績もいと多かりき今にして思ひ合すれば本年一月の例會にはわざ〳〵濱尾夫人へ電話もて時間のことども問ひ合され降雪をも厭はせられず久々に

て出席せられ四方山の御話しもありけるがこれぞ本會との永訣ならんとは今や染井の露と消え果てられいとも哀しきことにこそ本會は謹みて茲に伯爵夫人の死をいたみまつる、

倘同夫人御病中には濱尾夫人其他の役員にも御見舞の爲め伺候し御逝去の際には豫て贈品御斷りのことなりしも團躰のことなれば生花壹對を贈呈し御葬送當日には本會總代は勿論何れも會葬せられたり

新潟支會例會

●三月六日新潟市なる高橋產婆學校内に於て開會せしとのことなるが當日の講師岡友三郎君には皮膚病に就て長井千壽君には痲疹と胃腸病に就て何れも講演せられ出席會員凡六七十名何れも綿服にて出席せしといふ

勝間田支會々長への寄送

支會々長勝間田夫人にはこたび東京轉任せらるゝことゝなりしをもて會長辭任せられたり同夫人は支會設立以來非常に盡力せられ慈善會の如きも又同夫人の發起に因るといふサレバ同支會に於ては慰勞餞別の意を表せんとて會員一同醵金して東京なる天賞堂に注文したる純金平打ゆびわを贈呈し又役員一同よりは送別の意を表せんがためとて白紋羽二重壹匹を贈られしといふ

寄附

一金拾圓　中村しげ子

前幹事中村しげ子には父君御死去の際慈善のためとて新潟支會慈善會へ前書の金圓寄附せられたり

新潟支會よりの寄送

本年に至り同支會より左の如く寄送せり

一金參拾五圓

内

金拾五圓　関屋貧民子守學校へ

金拾圓　新潟丹津丸遭難遺族者へ

前號雜誌中新潟支會役員の部訂正

（本年度役員）

會長	勝間田千代子（再）	副會長	小柴きく子（新）
幹事	池原きん子（再）	幹事	保倉せい子（新）
仝	大桃せん子（新）	仝	竹山れつ子（再）
仝	高橋忠子（新）	評議員	安原なみ子（新）
評議員	水野さら子（再）	仝	中村しげ子（再）
仝	中村きん子（仝）	仝	鑓富孝子（仝）
仝	神尾つや子（仝）	仝	古閑初瀬子（仝）
仝	河上ふさ子（仝）	仝	土田さめ子（仝）
仝	稲津しん子（新）	仝	若杉きく子（新）
仝	坂本いち子（新）	仝	井原かま子（仝）
仝	都築すか子（新）	仝	田代てう子（再）
主事	中野えつ子（再）		

●師辭任　支會講師清洲覺太郎君には上京轉住せらるゝ爲め講師辭任せられたり

●新潟支會の顧問　本年度より新潟支會に關する總ての相談役は高橋病院長高橋辰五郎氏に依賴せしといふ

●講師　又本年度より阿部玄四郎、岡友三の兩君は支會講師たることを承認せられたり

●支會評議員小島こま子には轉任の爲め役員を辭され其後任には前評議員中村きん子再任せられたり

●通常會員田村みち子には以後特別會員に變更せらる

山形支會例會

四月第一の日曜を卜し同支會の例會を開く豫定なりしが同日は新潟市なる濟生館創立日に當り講師方差支のため四月八日第二日曜日午后一時より同市高等女學校に於て例會を催せり來會の會員四十九名傍聽十四名臨支會々長安村副會長にも出席せられ淺田醫學士には前會より引繼き赤痢病者發生時の注意川上

醫學士には姙娠中の心得に就き講話せられ四時閉會せりといふ

●山形支會々長は此度關山形縣知事夫人に依托せられたりと同夫人は從來本會の會員にしあれば殊に本會の歡ぶ處なり

山形支會々長　山形縣知事夫人　關　むら子

一金千疋　右關山形支會々長より寄附せらる

本會之報

●左の諸氏は四月以降本會の爲め會員の種類を變更せられたり

終身會員　舊通常會員　笠井梅野子

終身會員　仝　宇津木繁子

終身會員　仝　大谷嘉知子

入會者報告

本會入會者（自三月中旬至四月中旬）

○日本橋　高橋孝子紹介
●下谷區上根岸三十番地　通常會員　末永てい子

○役員　西升子紹介
●東海道大磯　通常會員　吉松春賀子

○新潟支會主事中野えつ子紹介
●麹町區永田町二ノ三十三　特別會員　伊集院しげ子
●大坂府東區常盤町一丁目三番屋敷　特別會員　福永ちか子

○淺草　柏坂壽美子紹介
●日本橋區西川岸拾貳番地　通常會員　前田富美子

○麹町　矢守艶子紹介
●麹町區元園町一番地　通常會員　内川むめ子

○役員　丹波貞子紹介
●本郷區弓町二丁目二十五番地　通常會員　田村きよ子

○麹町　河村貞子紹介
●牛込區早稲田南町八番地　通常會員　中山樂子

○本所　粟原稲子紹介
●神田區元柳原町四十四櫻井平一郎方　通常會員　今井きく子

○日本橋　樋口八重子紹介
●本所區相生町五町目五番地　通常會員　芳賀光子

○牛込　宮武ゑい子紹介
●牛込區揚場町十三番地　通常會員　竹内いち子

○日本橋　安達かつ子紹介

●京橋區木挽町六丁目八番地　通常會員　鈴木はな子
●京橋區木挽町三十一番地　通常會員　眞田みき子
○幹事　高木から子紹介
●京橋區山城町十一番地　特別會員　大岡春子
●京橋區築地二丁目十一番地　特別會員　大岡榮子
●小石川區表町六十番地　特別會員　山口こい子
○淺草　青木すゞ子紹介
●淺草區猿屋町十七番地　通常會員　古川せつ子
○神田　佐々木かく子紹介
●神田區錦町三ノ二鈴木方　通常會員　玉置ます子
○牛込　伴よし子紹介
●牛込區市谷仲町一番地　通常會員　村木きくゑ子
●牛込區余丁町五十九番地　通常會員　吉武わい子
○芝　大津やま子紹介
●芝區西應寺町六十一番地　通常會員　武田よし子

新潟支會入會者

高橋產科病院內
落谷せん子　西村みや子
町田のぶ子　本間たか子
矢島千代子　庭山たい子
澁谷せい子　時岡つね子

產婆學校內
八木よしの子　丸山たま子
春山つる子　後藤れい子
田中ぶん子　鳥羽まさ子
岩島いし子　水澤ますへ子
井上しづ子　下きくの子
前田わせ子　長谷川玉子
菱田こまじ子　丹羽ちくよ子
齋藤いち子　藤澤てふ子
富川はる子　水野まつ子
遠藤たつへ子　小柳ちい子
目黑さき子

○役員　安原なみ子紹介
●新潟市下旭町　通常會員　山本和草子
○和田れん子紹介
●新潟市學校町　通常會員　山田春子
●仝所　仝　片山ふさ子
●仝所　仝　宮坂とさ子
●仝所　仝　野村とし子
○會長　勝間田千代子紹介
●仝學校町　通常會員　涌井せつ子

●營所通　仝　中村常盤子

○副會長　小柴きく子紹介

●仝寄居町　通常會員　今井千代子

●仝白山浦一町目　仝　涌井とよ子

●仝所　仝　塚野まさ子

○幹事　大桃せん子紹介

●仝上旭町　仝　馬場まさ子

○主事　中野えつ子紹介

●仝西堀通　通常會員　松本きく子

●西蒲原郡井栗村　仝　松井あやの子

○町田こと子紹介

●三島郡與板町　通常會員　今井やす子

○役員　中村きん子紹介

●西堀通四番町　通常會員　中村ゆう子

○講師　高橋辰五郎君紹介

●高橋病院內　通常會員　佐藤すへ子

○役員　田代てう子紹介

●古町八番町　通常會員　片桐くに子

●古町十三番町　仝　木野井雪野子

●上大川前九番町　仝　龜倉かね子

●上旭町　仝　橘よね子

○町田こと子紹介

●三島郡與板町　通常會員　久保田春子

○淺間しけ子紹介

●南蒲原郡三條町　通常會員　眞保すよ子



山形支會入會者

●山形市新築（東京麻布ヨリ轉居）本會々員　關むら子

●仝香澄町庚申堂佐藤熊太郎方　通常會員　池田とく子

●仝所　仝　石川せん子

●仝所　仝　大村やす子

●香澄町木ノ實小路　仝　志賀とく子

●新築三百五十一番地　仝　塚田きぬ子

●仝所　仝　大山はる子

●旅籠町六百四十五番地　仝　木村つね子

●東村山郡山邊町　仝　垂石じん子

●改姓　在讃岐會員矢田やす子は守屋と、在東京堤松子は渡邊と何れも改姓せらる

●正誤　前號姓名溝中在山梨武滕常子は武藤常子

東京杉山わか子は・わ・か・な子仝大島・は・れ・は・い新潟支會小紫きく子は小柴の何れも誤り玆に正誤す

●住所不明　左の諸氏は行先不明に付御承知の方は御一報相願候●東京芝車町上村きよ子●本鄕小林もよ●本所向島深津よね●芝車町神宮司富子●東京三島好子●志賀かま子●兒島直子●新潟支會●梅木しづ子●相川いち子



轉居

●對馬國下縣郡宮谷町九十一番地へ　淸水住江子
●荏原郡大井村三千百三十一へ　手塚ふく子
●大坂市糸屋町一丁目廿五番邸へ　仙田花子
●芝公園第十五號地二號へ　岸澄子
●麻布區材木町十番地へ　柴田鶴子
●越後國刈羽郡柏崎北角村字四ッ谷へ　品川いし子
●神奈川町神奈川四ノ町四番秋山愛造方へ　秋山盼子
●牛込區矢來町一番地七十一號へ　三島よし子
●本鄕湯島切通坂町三十七番地へ　横川き代子
●麻布區板坂四番地へ　早田純子
●台灣台北病院內へ　鈴木てる子
●赤坂溜池葵町小松宮邸方へ　石川たき子
●北海道檜山郡館村字須川二番地山田致人方へ　山田こう子
●芝區三田四國町十八番地へ　長野敏子
●本鄕弓町二丁目三十四番地へ　青山孝子
●大坂市東區船越町一ノ百十八屋敷へ　北代幸子
●讃岐國多度津新町六十三番戸へ　藤田開子
●淺草區山ノ宿町五十一番地へ　片岡保子
●麴町區富士見町六ノ十へ　淸洲さみ子

本會入會者會（第二）

○麴町島崎たけ子紹介
●日本橋區蠣殼町三ノ五　特別會員　長井とし子
●仝大傳馬町一ノ五　特別會員　長井くら子

會告

今般左の兩氏は本會の賛成員たることを承諾せられ山梨地方會員勸誘のことを承諾せらる

山梨縣廳內山梨衛生會事務所內
賛成員　武藏秀直君

山梨櫻町三町目
仝　武田淸四郎君

●會　告

一本會通常會員中學生會費は是迄七錢に制引致し居候處去る十日本會總集會に於て規則修正の結果**學生會費を一ケ月拾錢**とし學生名義を總て通常會員に改め**四月**より實施の事に相成候間右御了承有之度候也

一**本會事務所**は去一月以降**東京市牛込區矢來町三番地字中丸へ移轉**致し候處往々舊事務所宛御郵送の向も不尠候間茲に再び申添候也

一**會費**御送附の節は東京市**牛込郵便局**振込（小爲替にて）**東京市牛込區東五軒町五十一番地**本會幹事**高木かう子**宛御郵送相成度候也

一會員方にして**御轉居**の際は必す本會事務所へ御一報相願候

明治三十三年四月

私立大日本婦人衛生會

ちきう印藥用葡萄酒

本品は諸君も已に御承知の通り甘味と云ひ風味と云ひ實に言ふに言はれぬ語るに語られぬ一種の味があります兎に角紳士淑女の御飲料御滋養として御用ひになりますには先づ本品に越えるものは恐くは万國に御座えますまい今回は特に改良して試驗濟の封緘を一壜毎に貼付して發賣致し升から何卒層一層の御愛顧あらんことを切に希望致升

試驗濟封緘付賣捌所は
全國到る所にあり



●婦人及小兒に必需の滋養品●

米國紐育府ボビナイン會社製造

ボビナイン

飲めば悉く血になる營養液

優等なる滋養品といへば蛋白質の含量多きものゝ謂なり然り然れども若し之が製法宜しきを得ざれば消化の難易に由つて未だ以つて人身體を養ふ價値を定むべからず爰に本品は多量の蛋白質を含み而して消化の容易なること幾んど消化機を勞せずして吸收するものたるは諸大醫の試驗報告に據つて明なり左れば歐米各國に於てあらゆる他の滋養品を壓倒して聲價を博せるも決して偶然にあらず殊

婦人科病一般及**産前産後**殊に惡疽の身體を養ふに恐くは天下之が右に出るものなかるべし又**小兒**の營養を助長せんには實に欠く可らざるものなり若し夫れ稟賦纖弱或は疾病に由つて衰へたる時に試みられなば其効の顯著なる驚くべきものあらん冀ば紳士貴女幸に試用あれ

●ボビナインは或疾病(口腔より嚥下し難き)若くは哺乳し能はざる小兒に向つて注射又は浣腸に本品を用ひ九死に一生を得せしめたる諸大醫の報告極めて多し

●ボビナインの應用汎しと雖ども肺病、腦病、胃腸病、貧血症、脚氣、病後恢復期、斷乳期及發育不良の小兒等には天下唯一の營養品として迎へらる

●ボビナインは單に蛋白質に富めるのみならず人體を保持するに必要なる各成分を悉く恰當に含有せる液體にして厭ふべき臭味なし滔々世に流布せる所謂滋養品と同一視すること勿れ

●ボビナインを用ゆれば其効驗として身神の爽快なる忽ち體量を增加し食慾を增進し息切れを覺ゆるなき等に驗すべし

BOVININE.



定價　大瓶　貳圓廿五錢　中瓶　七拾五錢　小瓶　六拾錢

東京市本所區相生町四丁目十七番地

直輸入日本一手販賣　**橋本商會**

●ボビナインは全國到る處有名藥舖に於て販賣すと雖ども若し便上宜本店へ御照會あらば速に御送申すべし

醫學士竹中成憲先生新著

●通俗肺病豫防養生法　正價四十錢　郵税四錢

右は肺病の原因徴候、療法等を極めて通俗的に述べたる者にして其主眼とする所は攝生法を明にし此恐るべき疾病を未發に防ぎ既に發したるものは之を治することを詳論せり例ひ本病なきも衞生に心あるの諸君一讀せらるれば身躰を强壯ならしむるの法を會得せらるゝことゝ信ず

醫學士竹中成憲先生著

●最新學説日本小内科學　本綴美本一千頁　正價貳圓　郵税十六錢

本書は先生が奇拔なる觀察に基き本邦に固有なる若くは本邦に通切なる事項を集め簡約に編述せられたるものにして附錄の速診法、藥室備付品表、開業に際し必要器具一覽表、開業費豫算、邦語内科各書目等其便益實に尠からざるなり

醫學士竹中成憲先生著

●新藥効用區別　袖珍臨床　正價貳拾五錢　郵税貳錢

發兌元　東京市本鄕春木町二丁目二十二番地

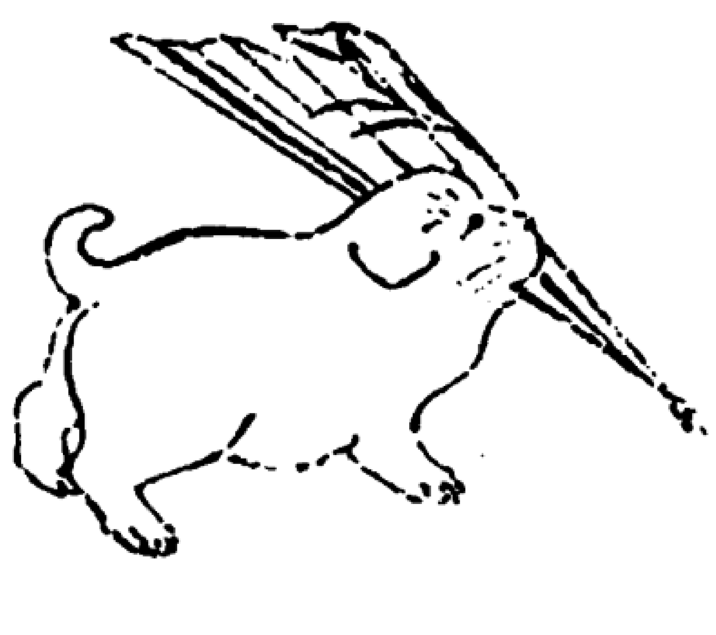
半田屋醫籍商店

今般本會に於て**人員を增加**し廣く**派出**の御求めに應ず

麴町區飯田町一丁目八番地（九段阪下）

九段看護婦會

主　船曳みき



私立大日本衛生會

●新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員	一時限り出金貳拾圓	
特別會員	毎月	金參拾錢
通常會員	仝	金貳拾錢
支會員	甲 毎月	金拾錢
	乙 仝	金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一名拾錢宛を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名主事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

私立大日本婦人衛生會

●山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す
役員の任期は一ヶ年とす

第三條　本支會は毎月一回(第二日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通會費を添へ會員に紹介を依賴すべし
本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし
但し六ヶ月　又は一ヶ年分
新に入會のものは其月より六ヶ月又は十二ヶ月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す
上着及羽織は絹布を用みるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衛生會
山形支會
事務所山形市檜物町淺田方

三十六年遞信省認可

●大日本婦人衞生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす

一男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特別賛成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一集會は例會總會及評議會員とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午后一時より開會するものとす

但每會學識經驗ある者に衞生上の講義演說談話を囑託し會員をして随意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得（勤めて衣服は質素たるべきこと）

一講議演說等は男子の傍聽を禁す但賛成員若くは會員緣故ある男子は此限にあらずと雖も賛成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出つべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尙詳細は本會事務所へ承合すべし

注意

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便取扱所（東京牛込郵便局）宛振出あるべし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料		本誌定價
一頁	金二圓	壹部 金貳拾錢 每月一回發行
半頁	金一圓	
一行	金六錢五厘	
總て前金とし割引なし		

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所 私立大日本婦人衞生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者 田中德三郎

東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者 戸上義章

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場